

平成29年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校訓	「誠の心にしたい信念を貫く」		重点目標	(1) 学力の充実を図る。 自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化により学力の充実を図る。 自学自習できる教材を活用しての不得意分野の克服と、学力向上を目指す。 (2) 日々に満足できるよう充実した生活を目指す。 自己を大切に、他人への思いやりをもつ。 自ら考え、正しく判断し、よりよく表現や行動ができる。 (3) 社会に貢献する態度と能力を育てる。 社会人となるにふさわしい人格を育てる。 目標を持って、自らの未来を切り開いていく。	学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 馬場 克治	
	校訓の「誠の心にしたい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。				(評価) B	(評価文) 生徒・保護者・教職員・学校関係者、それぞれの評価が公正に行われていることは、課題が明確になっていることになる。評価を指導の改善につなげる方策を立て、実践しなければならない。
学校教育目標	未来を広げる高い学力・・・教科学習の充実、学力向上。 意欲に満ちた輝く生徒・・・自ら学ぶ力、思考力、判断力、表現力を高める。					
重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては（小テスト等）適切であったか。	B	単元が終了するごとに小テストを実施することで学習成果の確認ができた。また、各定期試験前に復習プリント等の教材を配布することで学力の定着化を図ることができた。予習については、生徒の自主性に任せるところが大きかったため、今後は予習に活用できる教材を準備し、支援していく必要がある。	A	試験対策プリントなど、家庭学習を充実させる方策が練られていた。また、試験範囲の総復習を授業内で行うなど、学力の定着を図る工夫が随所に見られた。
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	A	生徒の苦手意識が強いと感じる分野について、教員がその意識を生徒と共有し、視聴覚教材や多読と繰り返しを活用した学習を通して興味を引き出すように努めた。また、生徒が具体的にイメージしやすいように身近な物事に例えて説明することで、「わかりやすく」「魅力ある」授業が概ね達成できた。しかし、個人差があったため、多数の生徒の共感を集められるように今後も工夫していきたい。	A	難しい学習内容も、生徒のレベルに応じて上手にかみ砕いていた。また、各教科とも教材に工夫が見られ、多読と繰り返しを意識した学習を徹底していた。
	③補助教材として「スタディサプリ」を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。	「スタディサプリ」を活用した学習に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	C	生徒の自主的な取り組みに任せることが多く、有効的な活用の提案ができなかった。そのため、目標を持たせたり、学力の向上につなげたりすることがあまりできなかった。	C	生徒によって取り組みに差があった。全校が同一歩調で取り組む体制をとる必要がある。
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って選択教科の学習に取り組みませ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	国・数・英基礎演習を実施しなくなったことにより、漢字・数学・英語検定への意識が薄れてしまった。今後も資格取得の意識を高める工夫をしていきたい。情報各種検定においては、放課後や休み時間を利用して、個別指導を行うなどの支援ができた。そのため、意欲的に学習する生徒が増え、成果も上げることができた。	B	進路に直接関係することの多い情報各種検定や英語検定への意識は高まっているように感じた。しかし、漢字検定や数学検定など、進路に直接関係することが少なかった検定に関しては意識が低迷していた。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学 力 の 充 実	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	B	教科部会において、「生徒の疑問に即答できる」ための教材研究の重要性について話し合うなど、工夫・改善に努めることができた。しかし、教科単位での取り組みに留まってしまった。新学習指導要領における「深い学び」を達成するためにも、教科の垣根を超えた全体での取り組みを、今後行っていく必要がある。	B	教科ごとと工夫がよくなされている。そのため、同一科目を複数の教員で担当していても、質に差がない。しかし、全体研修の時間が確保されていない。
2. 日 々 の 生 活 の 充 実 を 図 る	①自己を大切に、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	B	不安を感じている生徒については、時間を設けて話を傾聴し、抱えた悩みを把握することができた。またその際、カウンセリングマインドで接し、前向きに生活していけるよう支援に努めた。	A	生徒一人ひとりの悩みに寄り添っている。休み時間や放課後など、教員と生徒との会話の時間がよく確保されている。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	A	良い変化については、気づいたときにすぐに評価するように努めた。また、改めるべき点を指導したときは、必ずフォローをするようにした。常日頃から生徒との信頼関係をしっかりと築き、その上で指導するように心がけた。	A	生徒たちは自己肯定感を高め、自信をつけている。信頼関係を築いてから指導することで、生徒は教員の指導を素直に受け入れている。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳肅なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	A	生徒の言葉遣いの指導については、時と場合により、甘くなったり、厳しくしたりと徹底することができなかった。教員の言葉遣いについても、状況によって使い分けることが多く、徹底できなかった。生徒の服装については、見逃しや例外をつくらずに指導することができた。教員の服装についても、範を示すことができていた。遅刻・欠席については家庭連絡を確実に、改善への支援を行うことができた。	A	服装の乱れた生徒はほとんどいなかった。また、挨拶や言葉遣いは丁寧で、洗練とした受け答えに好感が持てた。出席状況は年々改善されていると感じる。
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	B	通学路および沼津御用邸記念公園の清掃の奉仕活動を通じて、社会貢献の気持ちを高めることができた。学校外で、困っている人を生徒が助けたといった事例や、外部の人から感謝の言葉を頂くといった機会が多くなっている。	A	落書きクリーン作戦や点字ブロックキャンペーン、自転車マナー向上委員会などの生徒会活動を通して、地域への貢献をしている。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	A	学年内での報告・連絡・相談は徹底できたが、他学年との情報の共有が不十分だった。保護者との連携は些細なことでも徹底するなど、問題を未然に防げるように努めた。	B	生徒をよく観察し、少しの変化も見逃さずに指導されていた。また、指導後の家庭連絡が徹底され、そのきめ細かい対応から多くの生徒・保護者に信頼された。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	B	スマートフォンの夜間の使用により、寝不足の生徒が増加している傾向にある。その適切な使用について、学校で呼びかけはしたが、家庭との連携が不十分であった。健康の保持については、日頃から、睡眠時間の確保以外にも、食事や衛生管理などの指導も徹底し、一定の成果があった。	B	インフルエンザが流行した時期に部活動停止などの対策がとられ、流行の抑制につながった。ただ、生徒自身による健康管理については不十分な面も見られたので、家庭との連携も含めてさらに改善する必要がある。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	進路決定のために、夏季休業中に特別学習を行うなど、概ね達成できた。しかし、希望者のみの参加だったため、全体としての実施を今後展開していきたい。	B	一般的な教養を高める方策は全体的に練られていたが、専門的な技能の習得に関しては、芸術コースや情報処理コースなど、特色あるコースに限られていた。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	B	進路に関する情報提供、面談等については適切に行うことができた。しかし、生き方指導までできた生徒はごく僅かであった。今後は、長期的な進路計画を立て、生き方指導まで達成できるようにしたい。	A	進路相談に親身に応じている。また、資料提供も十分為され、ニーズに合った進路選択ができるように支援していた。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	B	希望した一部の生徒に対しては個別で学習指導を行い、大学入試センター試験を見据えた支援ができた。しかし、なかなか結果につなげることができなかった。また、一般入試希望の生徒を増やすことができなかった	C	国立大学や、有名私立大学への進学者が増加していない。今後はスタディサプリなどを有効活用し、指導・支援をより充実させていく必要がある。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	企業訪問を適切に行い、新規開拓した企業への内定者を複数出すことができた。また、手厚い履歴書や面接の指導により、就職内定率を高めることができた。	A	高い就職内定率から、指導が徹底されていると感じた。また、業種も多岐に及んでいた。